

部名所圖會

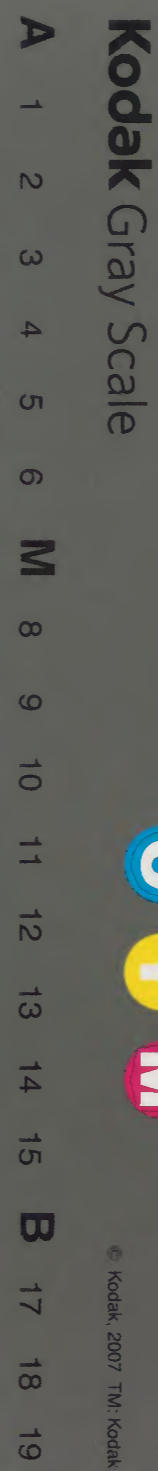
後編

卷之九

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 和 | 八 | 七 | 二 | 類 |
| 書 | 一 | 四 | 冊 | |
| 門 | 二 | 冊 | 架 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 內 | 八 | 七 | 二 | 類 |
| 閣 | 一 | 四 | 冊 | |
| 文 | 二 | 冊 | 架 | |
| 庫 | 七 | 二 | 冊 | |

| | |
|------|----------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 8872 |
| 冊數 | 11 (9) |
| 函號 | 172 177 |



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

拾遺記 卷之二 目錄

京都所圖會卷之二目錄

龍青龍尾

昆沙内堂

鏡山

光秀塚

將軍塚

堤河

鶴森

親鸞瓦鋪

娘ヶ池

聖護院

栗田社舊跡

吉備公像

袖競

安祥寺

小瀬治水

青蓮院

板殿子

風羅坊舊趾

堀出觀音

秋葉祠

熊野権現

九府墳

明星水

袖原

松坂

花頂山旧趾

耕耨巷旧跡

法勝寺舊蹟

満願寺

東天王

御所稻荷

新羅社

善正寺

真如堂稻荷

明王寺

栗田神明宮

比丘尼坂

在原行平亭

後醍醐寺舊蹟

葵ヶ倉茶師

禊成寺

鳥居大路

お石楓

月輪

迎稱寺

芝薬師

神楽園

春日社 若宮 勅使堂

吉田泉殿

法性寺

青龍寺

二軀石佛

砂川 柳ヶ辻

龍王宮

千石岩

十禅師社

愛宕墓

中将實方家

極樂寺

智福院

神楽園神

業平朝臣廟

正栄寺

沸々

陽成院陵

頼政山莊

樓門瀧

如意跡趾

中尾山

後愛宕墓

北白川天満宮

東北院

西天王

兼俱祠

一本松一本松

長徳院

地藏堂

小督局家

靈鑑寺

池比藏

大豊社

白河

貞信公亭

照高院

元真如堂 醍醐松

本比祠

新長谷寺

身隠森

武藏寺

後一條院陵

三本木

如意寺 霊木杉 鹿宮 厨加井

葵谷

辨慶屋鋪

白河陵

公任卿山莊

心性寺

丸生山

金福寺

圓光寺 御宮

狸谷不動

月滿寺跡

権中納言敦忠山莊

守禅庵

赤宮

小野毛人墓

観老石

矢背天満宮

波那志里杜

惟喬親王舊蹟

白川石佛

芭蕉庵 碑銘

桑山觀老 檜燈塔 坐禅石

白鳥嶽

老母坂

林丘寺 修善寺系

大納言平名御蹟

寶幢寺

所蔭山

神子淵

紀貫之家

大原上野

小野神社

頑仙祠 丈山碑銘

隆松

一系寺天満宮

花之谷

不動堂 水飲 地ヶ比

道入寺

山端

蓮義寺

甲淵

住吉石

所蔭社 同徳系

十禅寺

敏行朝臣家

舞樂寺天主

比良本社

曼珠院

鷺森 鬚隠至

叡山老忍谷

禅義庵

理昂院

高野社

千束碓

矢瀬川

炭竈里

攝取院

勝子社

西方院
 萱植櫓
 羅漢櫓
 鉄盤石
 静原峠

真光寺
 來迎橋
 法然上人腰掛石
 寂光院 補遺

賣山灰翁墓
 後香那院陵
 姫祠 大は杜
 火壺雨壺風壺

小野氷室
 獅子石
 良運法師の莊
 龍義越

山科
 毘沙門堂御門前

毘沙門堂の傳教
 大所の開基の
 初平安城今出川
 の水あり今塔
 の壺とつらな
 前縁ふらふら



毘沙門堂



毘沙門堂

袖 麩 びりし山林作鼻乃かとり小煮屋の市場
ありとくえり今定かきり

拾五

あつたり是も世はるいそり具山林の袖くまき 慈鎮

宇治拾遺云山林の乃つふ四の宮川原とて所小袖くまき人の
あつたり所あり又盛衰記云東路や袖くまき人あつたり遊堀と續く
まき 郊といをねと立はる後衣袖のほろ乃秀のはよふ 衣室西府

山林山院ふも
おさゆ袖乃ほろのさよふもさる歸るこの後 せん 心歌

明王寺

山林村街道より五町こり小菟乃中あり
禪宗中興 龍例禪師

本尊十一面観音

慈覚大師の允立後又眼士文殊普賢人眼極了観多
安んばけ後内小岡浮檢金一寸八分初世の徳安寺に

傳云天智帝の清冠小納也ゆふあり 糸賊天祠 佛殿の側あり天降かきり
るんくととあ茶之三小清あり

鏡山

山内小あり天智帝登天し時けは玉體とすの今又り
靈水寒暑小増減あり又は陵村小天智帝の臣下の苗孫今又り

明王寺の後山とて藻塩草云天智帝乃清陵之
詞林采葉抄云鏡山二所小あり山城近は豊前

萬葉集第二從山科清陵退散之時

長方 やとこさるつろろ人さみののこも清陵はる山林の 額田主

鏡のふよりのとよ

安祥寺

高野堂と号し由縁
前縁小久とり

伊勢物語が清高子くまき安祥寺を後のさるゆきふ
人こそけりのまねふとてよまゆき

心さるつろろ人さみのの別とさるる下 業平

後巻のふ世のなとれあきさむいとく程とさるる下 法印親瑜

青龍権現

當寺の鎮守なり真言密教之當山の無祖少僧都惠運のな
密客李處人等の辨ふはる本九年八月廿四日

入唐の足香士の會昌二年也武宗佛法を滅せし時又値く青龍寺
乃鎮守青龍の所轉取奉て皈朝を仁明帝の時宇嘉祥元年

八月小を皇太后追福乃為小安祥上下兩寺と建立して所獲板始行
と寺小唐朝の將來とす所の青龍乃作體板安泰一なりて寺乃

鎮守と云今觀音堂の西の儀ふあり文禄年中

松坂

高野山應其上再興と
粟田口より日野小ゆる坂滋板り

て車棧あり外なるふ久入りりまうたふとふかて通昭僧正の
きん花ふしと板りてけさつとめり新野山林如意山安祥寺

松の戸ありてまきく一器因縁板結餉り清きり多しとふ
りくありとあり

道免のりまきとらまき人志をまき坂の板ありまき 長明



山科
明王寺



山科
明王寺
鏡山

陵村

山科
安祥寺



伊澤



日山神明宮 粟田町の鎮坐の義教歴久遠し評あり次社記小曰

帝行幸ありて日山乃號衣賜て宮殿造營あり又天武帝は原

社司官軍小を擡して新田義興と共ニ地國小下武乃原

影向石 鳥井の石 神本 當山あり 宇治橋 當社入り口あり坂

明智光秀塚 近所黒谷道の東三町計小あり 志秀の頭成は所小

小鍛治宗近水 日所佛光寺墓所門前の西石垣の下小あり

花頂山 粟田山の西青蓮院の傍にあり華頂寺とて法華玄義科小

比丘尼坂 粟田町神明山小至る西一町大後的小坂とて古は地比

將軍塚 粟田町城久延の峯小あり藤上四やうと老松四五株あり

青蓮院 粟田町鎮の天台宗にして始祖ハ傳教大師中興ハ大僧正行玄

和尚形 保延四年十月廿九日座主小任を治山十七年之身二覺法

耕雲草菴 花頂山の奥又田趾あり耕雲ハ權大納言右大將補藤原長親卿

は十とせあまら白川の東花頂山乃奥小紅質とわく一藤原

友成むとむい泉石小うろ飯を命てありくく次 應永十五年

在原行平卿亭 鴨川のかつりのハ三代實録小入る

堤河 鴨川成り又近川とも近き系

六帖 月とのあせ乃を絶せりはく小を絶河系と云

後殿 鴨川の東に姉小流の末と云ん大尊會中後之百練抄小入る

又黒谷傳之法然上人の身子心寂婦小流白河坂成止子とい人

信實



大日山
神明宮
東岩倉

風羅坊舊蹟

岡崎ありて定ありて今所小螺髪阿弥芭蕉翁
陀佛とて人能法師ありは旧跡に駐るありん

都徑細の時をくくさふ侍し段しめて後其門下の者落人惟然あ

小棲て朝夕の勤ふ公羽の發句とれ後て恨い木魚うらありてあこふ

ふふ心と清し月雪とありれらる後宝永八の年二月九日きつてあこく

ありけ遺詞ふら全銀を辨し翁の肖像六の形見菅簑 笠杖 行規 空囊 紙繻 袈裟

へ惟然乃門費播多る千ふ附属に今小姫後の小増位ふ凡羅坊と

遷して堂と堂ふ小安堂一側小塚と築ての簑の塵と絶て神くさる

築塚ふ心又具側小姫府の城主の發句と石小鑄くさる委六頃 廣明を宗 圖今ふとく

とき成業や凡く屋まそ母名と身世

満願寺

下岡崎東側ふあり岡基の日亭上人岡伽井 堂前ふありて是法勝寺の 脚伽井と

文子天神

當寺乃鎮守之堂前の小あり初初小所ふ後世ふふんを

蓼倉薬師

満願寺乃小隣る本まは後教大所の能坐像一尺餘脇志十二神 寺院破壊して奉祀し漂流しきふと

故小蓼倉山法雲寺と別れ

親鸞屋敷

岡崎之應寺前町の南部家の北竹林の地なりは所ふ 五初庵とありて親鸞聖人之三十二歳の時之二年四月選擇集書子

堀出観音

乃小月福殿下の別荘乃田地あり田の字と月輪とは地あり是所なり 土蔵あり是足いり一勝寺の中乃盛る人

東天王社

所東の端ふあり祭神牛頭天王牛頭天王 華表の額正一位東天王と 書け

諸社根之記曰祇園牛頭天王初に播廣圖明石浦小垂通し又慶應小

願成寺

東天王の南ふあり大念佛宗ありては別佐を志通寺の惣所なり 寺説曰は北へ奮直言院ありて法堂蔵ありり應二乃無火

小羅之鳥

有る醍醐三空院小属し住職を普照後法一くは少く 醍醐三空院小属し住職を普照 後法一くは少く

ありけ教通寺の真雲上人止職しは銀佛宗と世小弘通し堂説

秋葉社

岡崎南側ふあり近奉遠別秋葉と権現之は坊は勸清しては 寺の里坊あり

御所稻荷社

岡崎南側ふあり初一一條殿館内ふあり一坂ありしなり

鳥居大路

上記曰建武二年正月奥列の國司頭家卿二万餘騎之栗田口より 左平記曰建武二年正月奥列の國司頭家卿二万餘騎之栗田口より

押寄て鳥居大路と名とす人居住とあり

あり其苗胤へ今青蓮院門跡の家なり

丁園崎
満願寺



新天皇



願成寺



下田村

一五七

松塚 聖護院 本乃西南二町許あり是則宇治悪た府親長の社地なり

善正寺 聖護院の東小細あり法華宗ありて本園寺小属に桐基ハ日鏡

釋迦堂 餘社あり地本堂乃西小あり教を教を佛を金銅の坐像九寸

右大臣吉備公像 黒谷觀音堂乃内不安室に衣冠黒袍を著して坐像及

明星水 氏者出西學於中國作爲和訓以教國人

稻荷社 眞如堂門あり當之の鎮守と改鳥居の額日本靈初稻荷

迎稱寺 眞如堂の鎮守あり時宗初に本條一條あり故小一條道場と

本尊不空索觀音 惠心の化立像又尺具外阿弥陀佛

芝薬師 近稱寺乃西小隣に靈芝山本興寺と号し元大宮又小あり

本尊薬師佛 運慶の化坐像二尺五寸十二神將行化立像二尺計

羽像 當寺小あり寺記曰將軍尊氏公乃夜の夢に女未だ若て今

利乃 教書又ハ家長高師直り状あり又後多院守附の佛舎

聖護院の東小細あり法華宗ありて本園寺小属に桐基ハ日鏡

爲小建之乃一室之身四世日廣上人興起と

國六極拔乃一室之身四世日廣上人興起と

靈尊ありて小徒常の指と

聖人ありて小徒常の指と

帝天平五年 歸朝して行基菩薩と云ふなり

師九指乃 佛色し一年後日本紀に云ふなり

氏者出西學於中國作爲和訓以教國人

稲荷社 眞如堂門あり當之の鎮守と改鳥居の額日本靈初稻荷

迎稱寺 眞如堂の鎮守あり時宗初に本條一條あり故小一條道場と

本尊不空索觀音 惠心の化立像又尺具外阿弥陀佛

芝薬師 近稱寺乃西小隣に靈芝山本興寺と号し元大宮又小あり

本尊薬師佛 運慶の化坐像二尺五寸十二神將行化立像二尺計

羽像 當寺小あり寺記曰將軍尊氏公乃夜の夢に女未だ若て今

利乃 教書又ハ家長高師直り状あり又後多院守附の佛舎

の多色小禁願の西れ方

僧塔山門捲樓が女等と建

甚屋しと云

羽像 當寺小あり寺記曰將軍尊氏公乃夜の夢に女未だ若て今

安重光とく庄園小丹羽將軍乃像と云ふなり

乃 教書又ハ家長高師直り状あり又後多院守附の佛舎

利乃 教書又ハ家長高師直り状あり又後多院守附の佛舎

利乃 教書又ハ家長高師直り状あり又後多院守附の佛舎



聖護院森
熊野推現社

振樂寺 芝蔭師の西小隣り時宗ありて藤澤小屬に初め及ぶありて意

本尊毘沙門天 心僧都の用より一條庚橋の云くは後世に及ぶありて

東北院 極樂寺の西小隣り時宗ありて藤澤小屬に本堂の額ハ東北院と

本尊辨財天 傳教大師の化之像二尺二寸計脇士左毘沙門天曰化

圓白道長公像 道長公ハ圓白兼家公の男正一位後政

和泉式部塔 寺内小 雲水井 堂前の西 軒端梅 日所小

拆みへの東北院といふ上東門院の所願を所父清堂圓白道長公に據り

法成寺の傍つらとせりて後世継ふるに拾芥抄ハ一條の書系極東より

上東門院の所法成寺の内東山の隅よりと杖業略記ハ長元三年八月廿一日

上東門院東山院と供養ありしと書つて落慶の導師ハ僧正慶命よりと

釋書ハのせりて又永承五年十月十二日ハ 天台王東山院ハ幸なる由百練

抄ハありてまたのまはるへハ伽藍魏々壯麗にして天台宗ハ淨刹之具旧地ハ

今の京極通法和院清門の山遣送院廬山寺等の地と委員撰の平安舊

圖考小載する 本和式部塔を軒端梅ハ今所々小あり皆東北といふ詠曲小

後撰 東山院のつらとせりて後世継ふるに拾芥抄ハ一條の書系極東より

元真如堂 真如堂の山打壇乃地と真如堂の本堂初 廬山常行堂在せし時一條院

下ハベリ具所ハ尺余乃 檜木千本一夜小生じより 靈蓋あり白河女院

の殿舎乃 檜地繪本生出來りてけ所ハ其時の舊地あり

本尊阿彌陀佛 慈覺大師の化 白河院宸影 同女院御影 共小画記

蓮華童子 蓮華童子 蓮華童子 蓮華童子 蓮華童子 蓮華童子

佛觀無量壽經と説く人時無數乃衆生法と聽て得道し且 嬾婆沙羅王韋提希

夫人往生を阿闍世王と善道小婦入り具説法の座下の土之早七寶の璽散

てけ靈土と扱め具上ハ 如來在坐の所ハ必醍醐味乃 清泉

永くさいふはんで佛法ハ 醍醐水 堂の山下壇の

あらん佛圖のハより 醍醐水 堂の山下壇の

東三條院 醍醐水 堂の山下壇の

神樂岡 吉田山といふ由縁

新六 代と祈るのりの神宗とてふ奉れざるそつらん

後撰 吟詠 道真

垣根の茶
 りえある
 ようや
 ふうて
 けろて
 やく
 くの
 初この
 の
 店
 真
 へ
 と





真如堂門前
 稻荷社
 迎稱寺
 芝茶師
 極樂寺
 東北院

智福院 神樂岡の南ふり 本尊 虚空藏菩薩 佛厨子三尊ありて外は注連と張る
 西天王社 所本社の下殿あり 祭神 牛頭天王 岡崎 天王と一雙の社と
 木瓜社 西天の東ふりあり 創祭 八月廿四日

春日社 所の中壇あり 祭神 清和帝 貞観 年神 中納言 山陰
 若宮 祭神 若宮の宮と 勅使 坊のあり 皇妃 夫人の社 祭とたをのり 土人乃

神楽岡神 祭神 乃小の祠之是當所の地主神ありて 延喜式 神名帳 了日 霹
 卜部兼俱 靈社 祭神 龍大明神と 後奈良院 勅号 ありて

新長谷寺 春日社の下壇の地あり 本尊 千手観音 立像 六尺二寸 元は池の
 應ありて 彼卿 本別長谷寺 小若して 千手の像 造らん 奉 祈 誓 及 奉 念 感

吉田泉殿 吉田の西北に泉殿あり 宇の田池あり 水石の跡 今小孩まを 明
 彫記曰 白河行隆 舟の宅ありと云

本真如堂

涼しきる

野のふ

念佛のね

去来



吉田春日社
新長谷寺



吉田の
森は花乃冠

乃々々
中の

玉うり

ま

聖宮丸大

玉葉

とんら

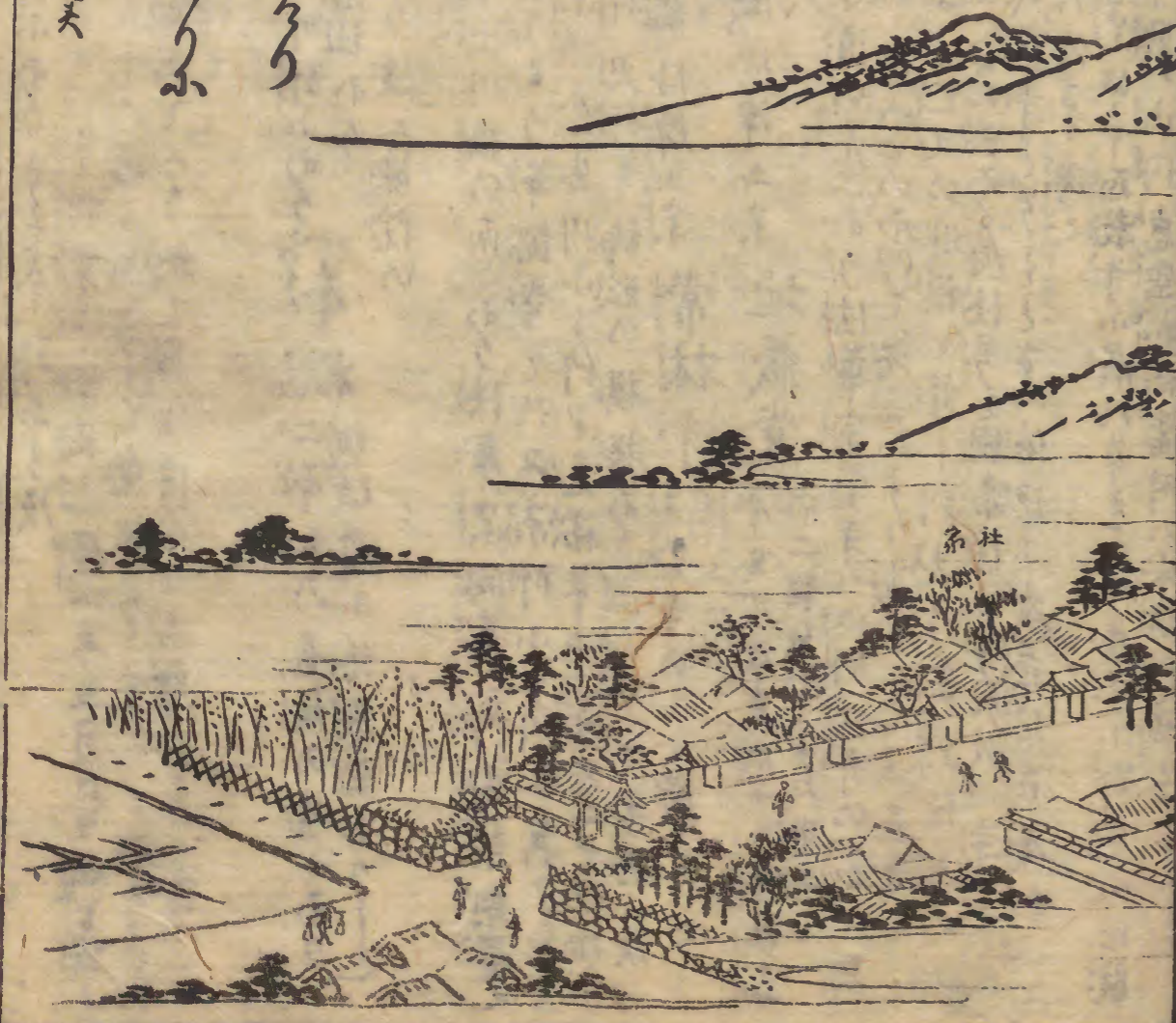
おむ

成り

山麓の名

従三位

為実



業平朝臣廟

吉田の真小あり... 中將の靈と神と崇めり... 日廿八日子の... 業平朝臣之慶四年五月九日病と發し...

二本松

身隠木林

法性寺

正栄寺

長徳院

武藏寺

青龍寺

吉田村の外西小一町計小あり... 二本松乃有... 初は所小地藏堂ありし...

法性寺... 初は相列鎌倉小あり本園寺と共... 法性寺の隣小等盤秤...

正栄寺... 常林寺の隣小隣は浄土宗... 常林寺の隣小隣は浄土宗...

長徳院... 常林寺の隣小隣は浄土宗... 常林寺の隣小隣は浄土宗...

武藏寺... 常林寺の隣小隣は浄土宗... 常林寺の隣小隣は浄土宗...

青龍寺... 田中村小あり天治宗坂本... 田中村小あり天治宗坂本...

佛々

地藏堂

後二條院

二軀石佛

陽成院

小督局家

佛々... 小佛々とし... 故土人字とせり... 佛々とし故土人字とせり...

地藏堂... 所西門の外南向小あり... 所西門の外南向小あり...

後二條院... 城國愛宕郡小白川村... 城國愛宕郡小白川村...

二軀石佛... 陵の東白河道の左傍... 陵の東白河道の左傍...

陽成院... 東の橋一葉... 東の橋一葉...

小督局家... 白川の流末小あり... 白川の流末小あり...



後撰
かしの川の水を
照月とて
友人とて
友人とて



鴨川の西岸に本
の橋中流のた
てかきとて入
りてお月様は
あまの針葉の
やしろの秋の
寺院と本の向
ふあつた道
提灯の
人々を
水車と
いふ





源三位賴政山莊 黒谷の東中山小田河あり 聖鑑之俗義四年五月廿四日

宮坂供奉しなる所 杖火とて久く

靈鑑寺 鹿谷あり 奉尊不動明王 智證大師の他 因基ハ靈鑑院尼公より

後水尾院皇女妙法院 竟然法親王母公とせり 代々比瓦尼所清住職

如意寺 靈鑑寺の南に谷を隔て隣り 如意寺の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

忽ち 觀世音ノ靈像 現然 嶮岨と平均 大所の裳 靈鑑寺尼公清再建あり

靈木 本堂の傍にあり 希代ノ鹿宮 因加井 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

龍王宮 如意寺の東にあり 如意寺の伽藍の傍に 社 靈二町あり 是より

樓門 龍王宮の南にあり 如意寺の講堂の南にあり

池地 鹿宮の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

葵谷 龍王宮の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

千石岩 葵谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

如意城 細川晴元 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

大豊明神社 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

辨慶屋敷 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

十禪師社 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

中尾山 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井

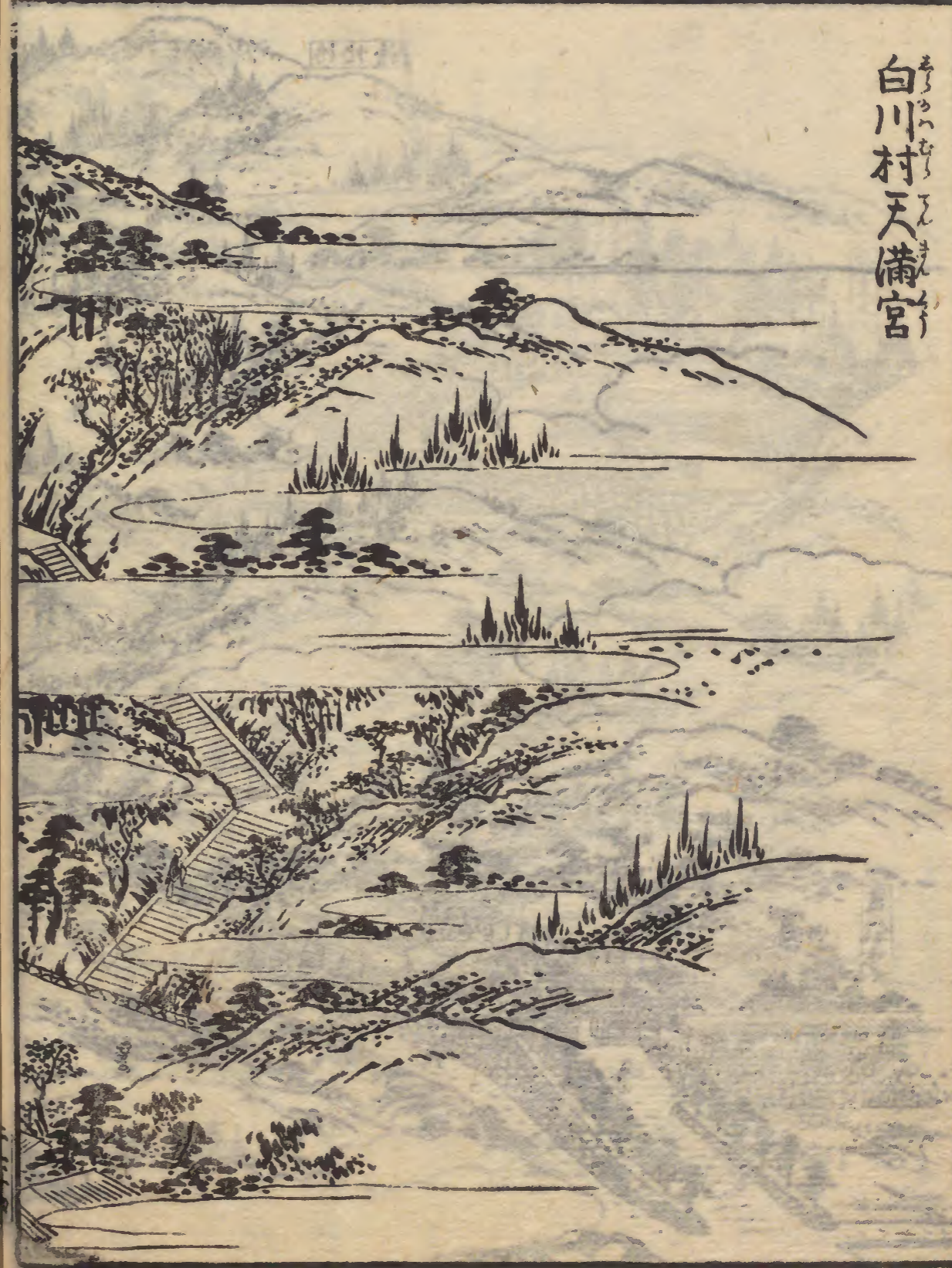
白河 鹿谷村 鹿谷の南にあり 鹿宮の傍に 鹿宮 因加井 鹿宮 因加井



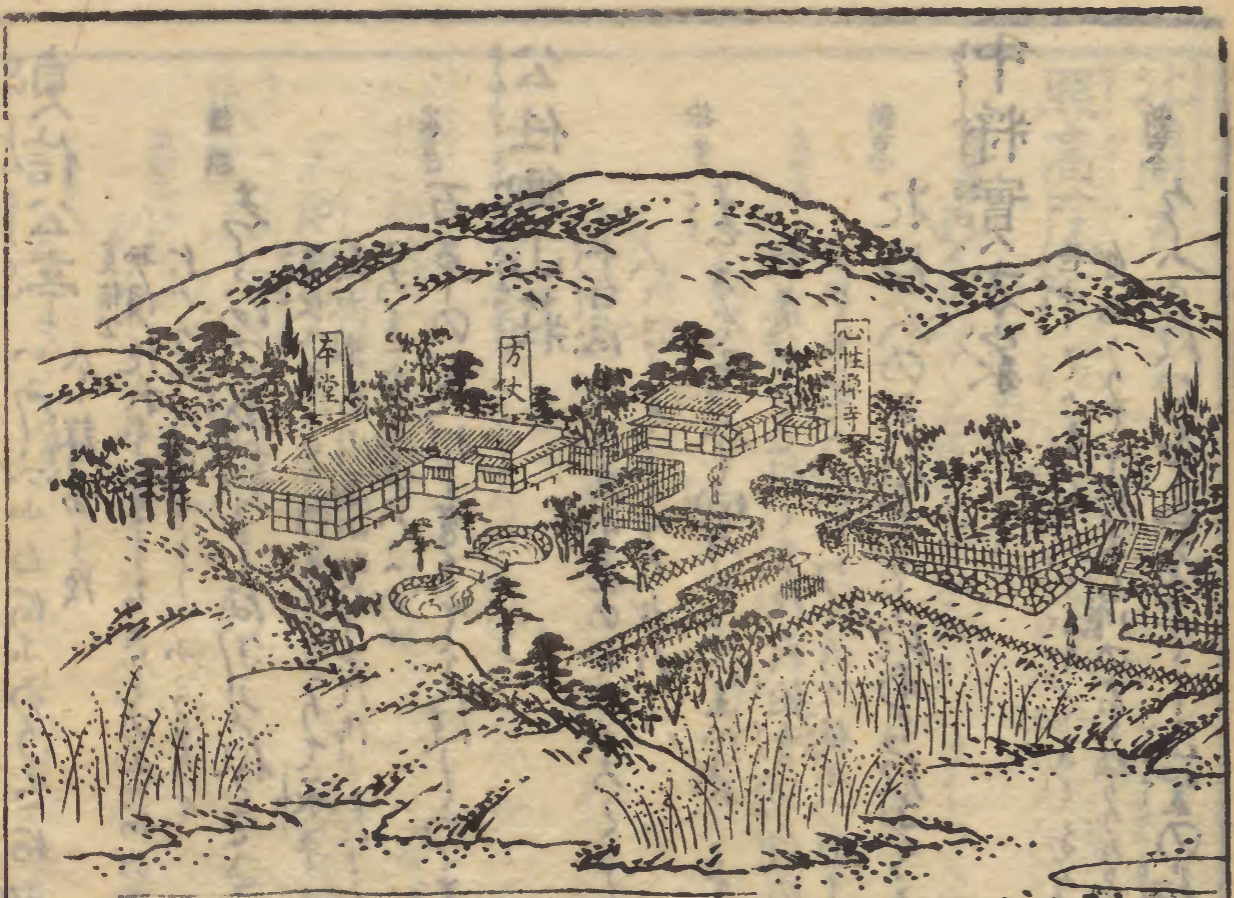
鹿ヶ谷
靈鑑寺
如意寺



白川村



白川村天満宮



白川
 心性禪寺
 衆願寺
 釋迦堂



貞信公亭

白河あり白河殿とて

貞信公亭 今詳あり

撰

あつたの澄れいそぬりたれとてふ人せよせしむを

百草の花れをまてうはしつあつらぬ白川の水

公任卿山莊

白河のれらるる花のありしるくされてゆきふ

吟

敦道のことれりて大納言公任の家ふゆりて

撰

中將實方家

中將のこふく人とおかくありゆきりて中將実方

撰

北白川天満宮

白河村南の方あり土人生主神とて例祭九月十二日神樂一基

照高院

日所あり聖護院總持所之阿基興意法親王寺門の長史聖護院の法

撰

たふきる二井の流とてあてふはしる法あり

雲のなれをむす雲にあはれとて松れをとりれと

心性禪寺日所あり禪宗本なる阿弥陀佛の坐像二尺餘阿基

瓜生山

心性寺の良あり元將軍地蔵の地則古城の形存るまへる

瓜生山

瓜生山 心性寺の良あり元將軍地蔵の地則古城の形存るまへる

撰

瓜生山 心性寺の良あり元將軍地蔵の地則古城の形存るまへる

撰

瓜生山 心性寺の良あり元將軍地蔵の地則古城の形存るまへる



福塚

撥樂
地獄
あえり
一休
もの
あえり
あえり
あえり



小白河の石佛は希代の
大像にしていつもの代乃
他といふ事とあるは列
子小孔子の言はく西
方小聖人あり乱れ
言はくはさね
とわらへる事

碩仙祠

一乘寺郷中舞樂寺村居己山上之町計あり是石川丈山の壽塋あり

墓前の石壇之向計石燈燼二基巡ふ丈山の松之樹あり此地都て赤土の元と

石川丈山の姓の源氏諱の重之初の名嘉右衛門後を親衛と改む一の諱を

四字ハ丈山之六山人と別稱して世に別ふ後にはえお乙卯五月

台命と崇つて園との所陣に烈つて竊小宮中と生そ不意小故軍入甲首

二級と侍らる其居寛永十八年官と辞して羅山子と友く常小詩を吟

諸山の名勝と訪ひ台藤の一乘と相て嘉道の地と芽と把て屋と構へ

新小詩仙堂と宮誓言て鴨川と渡らば小塾居し終小寛文十二年五月

廿二日卒と寺村中山築壽塋構祠於山房之異隅自号碩仙祠云

寛文十二年六月碑石に建る序文へ叙れりて云ふ畧に

其銘曰右器識居林巒安義節一柳谷散人整于苞父識

泥蟬冠懿哉德天地寛一柳谷散人整于苞父識

拵は地西有晴とそ皇城の萬戸をのく連く東小と巡る高野鴨川の法八月

舞樂寺天王社

舞樂寺村ハ腰あり一系ハ天王と同社ト玉人生土神ハ諸社根元記

金福寺

舞樂寺天王の下のあり禪宗南禪寺小殿に中興ハ鉄舟和尚あり

芭蕉庵

序小見へり又庵の北芭蕉翁の碑石あり清田文真と撰寫経社集乃

芭蕉翁以諧歌聞於海内諧歌即世所謂俳諧者翁之履歴人往往

詳之蓋伊賀人罷任隠於江戸又住江之大津遷於攝而終翁没

七十餘年高士韻人與夫諧歌者流思慕稱讚不已翁家所在有之

姪道卿新建於東山詩仙堂南金福寺中請予銘焉予義祖伊藤坦菴

先生亦與翁交坦菴集中有謝翁邀飲詩云可以想翁爲人矣

今之諧歌要有二端牛鬼蛇神眩耀蒿目打油釘鉸脂韋莠口野服葛

中風標如仙而明人所謂那白雲常飛卓程屋上翁作諧歌清新不

俗澹有骨力庶幾詩家陶韋抑又上接杜陵下伴香山亦或可擬世傳

名敬義予仲氏第二子出嗣樋口氏爲吾藩同宗川越侯源公知京邸

事慧而不苛介而能圓多諸技藝其於諸歌蓋亦有師矣淵源云道御

與翁生不並世出處異轍而心醉不已至有斯舉蓋有臭味相契於

才腴貌癯錦心綉腸行雲流水十暑三霜野老爭席

舞樂寺村
 金福寺
 芭蕉庵
 丈山墳





山門
佛殿
講堂
僧房
庫裏
山門
佛殿
講堂
僧房
庫裏



一乘寺村
圓光寺

瑞巖山圓光寺

一刹寺村天王の東二町計あり御宗前禪寺に属し千載

東照宮

當寺東の山上小洋鎮坐し於中興之要和尚清勸請し奉修所之

拵當寺の野別足利の學校と慶長二年

台命と號す伏見の坊月ふ極し

其後相國寺の因ふりし寛文年中は地移を中興の祖の要和尚之法嗣張

耳峰住禪師不受足利學校乃第九世又印板植字十萬字朝鮮の書籍

二百部 台命ふりて清寄附ありし之要和尚 命於て都鄙乃國字

取掌し故小洛陽の學校と稱し當寺の所建之ハ清代の最初とて

いし佛人 今の世小力者大物と華動を考ふ之要和尚とて其寺を修すに

慶長乱後記林道春云

足利學校の參議篁の建之我國庫序りて書生受業乃旧館なり社

領二百五十石あり近代九木老人次小銀講誦に大谷の時儒法漸く

廢して相國寺の圓光寺住長老とて此社と持たり云

葉山觀音堂

圓光寺の良二町とあり林丘寺禪所の沖抱所之存る馬

檜垣塔

觀音堂のありて小ありし之を修すに其價あり由縁



葉山觀音



曼珠院
天満宮



狸谷石不動

一軒寺村天王より長十町餘あり行路峻嶮之高三丈餘計の石窟あり中石像の不動尊長又尺計木食上人正禪の鑄と鑿驗へらまほくしてつゝ小遊人多し此地四隣峭壁少く谷の樹林蒼蒼として

白鳥越

同所の東北あり上古の性還道あり是より殿山東坂村定左村へも名古路嶮といふ

花之谷

同所の小ありは所小橋多し故小名とん殿山の衆徒一夏中勅切の橋ありより伐出は包の土人公役として

曼珠院

同所東北あり浄宗古天台ありて山門の座主と

年中山に於て閑と移し浄門跡は足兼法親王と初に中古より

禁裏乃側小遷を明曆二年良尚親王今の地小移し

竹内浄門

天満宮

當院後山あり衆神菅公後陽乃菅大は浄門主兼帶所之

月廿八日大實頼公月林寺に於て遷すといふ日本紀略之康保四年二月拾遺樹之古今の他者幽仙律師延曆寺別當小補を拜堂の爲小登之乃日坂本月林寺に於て遷すといふ

清真公月林寺に於て遷すといふ

鷺木林
鬚屈天皇

拾王
ひえのこ

香の色あは

杜より



雲母坂
雲母寺
林丘寺



林丘寺

方丈

六四

伊二全



ひまわり



先帝の御代に
 長谷川を以て
 飯沼と名づけ
 後漢の社を
 櫻坂の村に
 ありしが
 今も其の跡
 ありしが
 此の目
 出たる
 也

山端

茶屋山

尾野村

三河川

二八九



高野村
寶幢寺

高野末社九神

諸社撰記云加茂大明神山王貴布祿いさくの大明神
十二所推現山神云輪明神ウレノコセニ護擁神也上
村西ノ山際小森あり社ハ傍ニあり社領田字小あり九月九日ちれとあり土人
いさく大明神といふ。ウレノコセニ綴記云
教所前ニ云已上山城名勝志見へたり

小野毛人墓

小野氏系圖云毛人の敏達天皇の曾孫姉子の毛野男墓ハ高野
北の北崇道天皇乃社山上町計小あり人具所と踏とたを
則響坂の地あり土人それ怪む本舊し慶長十八年癸丑
十二月土人高野村政重といふものそれ坂掘る石棺と得たり内小金牌
一枚あり具表裏
乃文たのゆ

表文 飛鳥淨御原宮治天下天皇 御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上
長三寸計

小野毛人朝臣之墓

營造歳次丁丑年十二月上旬即葬

川添

御蔭山

高野村の東小あり。万水一露をみおまふはる野の方小あり
公命小あり人小安並とといふも祟あふよりの村氏忍怖して
以て石撤へねむといふ今は金屏の模高野村寶幢寺にあり
安並といふ
現存 六帖 そのかしの清經乃とけりる紫葉のたのむとて
家集 ねりといふ神のまはる昔のたのむといふ
中原師光
為家



高野蓮華寺
高野社



伊澤
二九三

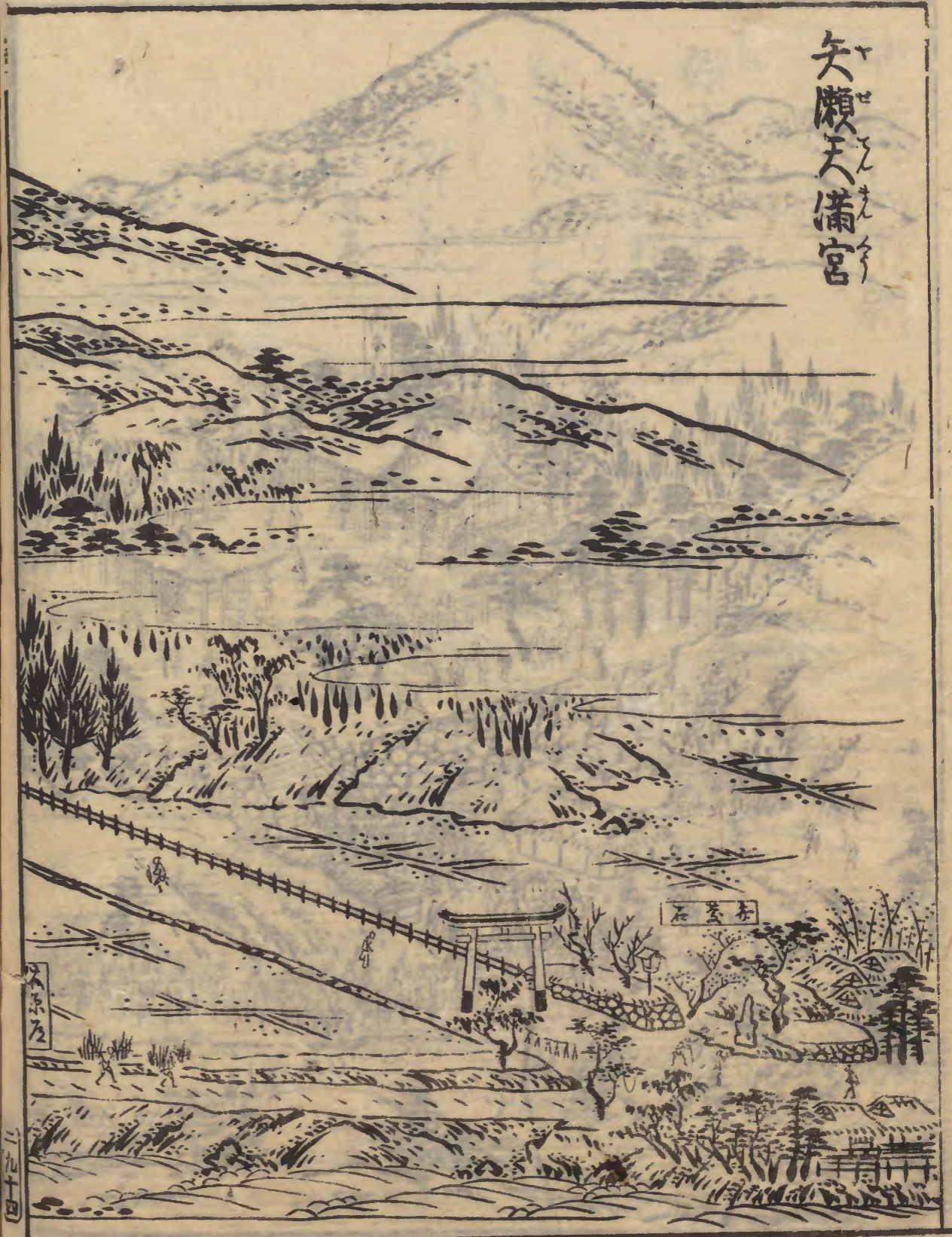
御蔭社御祭

御祭
 葵のまつり
 くらね神の
 まつり
 ひろのまつり
 合も
 伊澤





矢野天満宮



一
九
四

炭竈里

大原郷ありひりしは神と云く
炭とやれしより名と云

其書

よそめくもいしは志はる煙たへぬ炭うま乃こ

二所一尺

炭は乃煙の里乃名ふしと云ふも乃と云ふ乃のゆり

石原伊定

波那志里社

大原乃里南の郷
路傍の右あり 源太夫社 社乃中あり江文の末社ありは社の

上野

大原郷の西あり村のゆ
上野村あり

万代

そのつらうさうとふとら大系乃う人野の翁ふとらふ家と

仲実

十禅寺

戸村のひりし二町計山脈あり巡り御持ありて中ノ堂ありく
執事あり茶師佛と安んば住持大師の化立像四尺計靈験いら

無住

少して村中よりこれに護持

龍女山攝取院

大長村あり一名本尊阿弥陀佛 聖徳太子の化
坐像三尺二寸

閑基住法師

法師俗人あり一町ありを然と好む妻の妹小密通あり
妻と云ふ城城と云ふし制と云ふかるし後若惚し

く死と具怨霊と云ふら小蛇と云ふし制と云ふかるし後若惚し
中ノ身として又と云ふ乃と云ふし制と云ふかるし後若惚し
常小首と云ふし自障懺悔ありて老若と云ふし制と云ふかるし後若惚し
住生素懐紙遊ふく己上縁起の大意 威罪歡喜して益念仏念ふ

惟喬親王舊跡

上野村南の方田の家小所ありて
居乃所ありと云ふ所ありの之際一軒換と云ふ所あり

具此古た石塔あり土人云
惟喬親王乃所墓ありと云ふ人

古今 志まていあうと云ふ母いさ雪と云ふと云ふ人と云
雪乃らる日小野ふまうりてゆりし惟喬乃清子の
清乃いつくふうかると人のすゆし

小野神社 神名帳曰小野神社二座 愛宕郡
敏行朝臣家 小野ありし由後古今集小

伊勢 勝手社 大系乃至つて上人乃弘法住持守後と云ふしと云ふ人ふさふ上人勸請し

勝手社 大系乃至つて上人乃弘法住持守後と云ふしと云ふ人ふさふ上人勸請し

大系乃至つて上人乃弘法住持守後と云ふしと云ふ人ふさふ上人勸請し

西方院

上野村の中あり同基寂忍法師の般若尼の塔寺也小ありは尼ハ

真光寺

大段頼村の小あり本尊釋迦佛行基の化坐像又尺計

賣炭公羽墓

勝林院村極楽院の傍にありは地則小野ひりて寺に乃

翁ありは所し具首長ノ

拾玉 小野ひりて大系ひも炭後の煙かきあわれあり人 五鎮

住吉 炭はほし氷室も妙なり小野ひりて水とを隔りりり 後成

小野氷室

延喜式曰山城國愛宕郡

炭焼

やれは乃 清水鼻をえは 具角

坊よりこれれ所より小野ひりて水とを隔りりり

千載 下きり水室のふれは橋をえはつらる雪うらをえは 源仲正

拾玉 小野ひりて大系ひも炭後の煙かきあわれあり人 慈鎮

菅徳橋

大系橋井所の小ありは橋紅羽高野ひりて中廟橋 奥羽松乃

形り玉人曰毎聚一二人あり

伊澤

素迎橋

菅徳橋乃小あり截石の橋ひりて推干銅の擬寶珠あり郷中の蘇送

後鳥羽院

帝陵記曰北大原勝林院塔頭實光院あり大新所ハ院崎

獅子石

融通寺堂の右あり良忍上人あり小祠と建は

羅漢橋

融通寺堂の右あり良忍上人あり小祠と建は

法然上人腰掛石

日所の西小あり傳え上人勝林院本尊小系指り時と

姫祠

勝林院村住還の西小あり 大津杜 草生村北二町とりの

良暹山莊

舊地詳あり

清輔代々子日人々大系小遊行とおのく騎馬一々々小後頼朝臣

感歎し皆下野して行きたる伴の良暹房乃ひ病今ふたてありと

摩子小書り哥いまも消どと

山星の甲斐しあうる時多きとて初考さうはは 良暹

は有後拾遺小有って定頼卿のね新小叔同トと危つらとて小説

真守鉄盤石

居宅あり大原真守とり名銀治され



寂光院

草生村小あり龍嶽見入らば地時鳥乃名をさありて年月の源郡下乃驛客さく観して又賞を

家集

むやむじりや後と海はれくいふとさうくもあら

右京

世中小まきそを龍嶽のくふふはれてけりくさか後小多しうくされけりて遠れ院たおしおさう

玉葉

くかてめりうめふも懸るは世をさうくさうれ激あり

僧正全真

あやけや阿波乃肉侍のあれふ果

鷲水

火壺雨壺風壺

井出村江文社の後山小あふ山向小自然乃壺

龍華越

大系の奥小出石村乃北小ありて城峠ともいふ足止城邊の場

静原峠

江文の社乃西小ありは坂と越て長谷岩余小至るそれり鞍馬

補遺都名所圖會 青龍巻終

